

伊豆諸島におけるニホンジネズミの追加記録

本 川 雅 治¹⁾・長谷川雅美²⁾・森 哲³⁾

¹⁾ 京都大学総合博物館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

²⁾ 千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

³⁾ 京都大学大学院理学研究科動物学教室

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

要 旨 伊豆諸島の新島と利島で小型哺乳類の調査を行い、両島でニホンジネズミを確認した。両島でのニホンジネズミの記録はこれまで限られているので、ここに追加記録として報告する。両島でのわなかけ調査ではニホンジネズミがきわめて高い確率で捕獲され、本種の伊豆諸島での生息密度が高いことが示唆された。

キーワード: 伊豆諸島, 新島, 利島, ニホンジネズミ, 小型哺乳類.

食虫目トガリネズミ科に位置づけられるニホンジネズミ *Crociodura dsinezumi* は北海道, 本州, 四国, 九州とその周辺離島に広く分布する日本固有の小型哺乳類の 1 種である (本川, 1998). 伊豆諸島からはこれまで新島から 5 個体, 式根島から 10 個体, 利島から 7 個体が報告されたが, その生息密度は少ないと思われていた (今泉, 1957; 蔭山・本川, 1999; 高田ほか, 1999). 今回, 本川は伊豆諸島の新島と利島で小型哺乳類のわなかけ調査を行い、両島でニホンジネズミを多数確認したので報告する。また、長谷川が新島と利島で、森らが新島で確認したニホンジネズミについてもあわせて報告する。

調 査 方 法

新島では 1999 年 10 月 26 日に東京都新島村本村の集落周辺の耕作地, 利島では 1999 年 10 月 29 日に東京都利島村の集落周辺の草地および林において、小型哺乳類用の生け捕りわなを設置し、翌朝に回収することによりニホンジネズミの捕獲を行った。調査にはミールワームを付け餌とした服部式ジネズミトラップ 50 個 (服部ほか, 1990) を用い、さらに利島ではアーモンドを付け餌とした SFA 型シャーマントラップ 30 個もあわせて用いた。捕獲個体は外部計測や解剖を行い、エタノール溶液により固定した。標本は京都大学理学研究科動物学教室 (KUZ) に保管されている。

結 果

わなかけ調査により、新島ではニホンジネズミ *Crociodura dsinezumi* 7 個体 (標本番号 KUZ-M2571~M2577) とニホンアカネズミ *Apodemus speciosus* 1 個

体 (標本番号 KUZ-M2578) が、利島では服部式ジネズミトラップにより 10 個体, シャーマントラップにより 4 個体の計 14 個体のニホンジネズミ (標本番号 KUZ-M2579~M2592) が捕獲された。これらのニホンジネズミの計測値は Table 1 に島ごとに示した。捕獲されたニホンジネズミはいずれも成体であった。

これ以外の新島でのニホンジネズミの確認事例についても報告する。長谷川は 1994 年 11 月 11 日に宮塚山で、1994 年 11 月 12 日に向山でそれぞれシャーマントラップとはじきわなを用いてニホンジネズミを 1 個体ずつ捕獲した (標本番号 KUZ-M892, M893)。また、森らは本村の集落周辺の耕作地域において 1995 年 4 月 29 日 (標本番号 KUZ-M1637) と 1999 年 4

Table 1. External measurements of *Crociodura dsinezumi* from Nii-jima and To-shima of the Izu Islands collected in October 1999 (Mean $\pm$ SD, ranges in parentheses).

Character	Nii-jima (N=7)	To-shima (N=14)
Body weight (g)	7.2 $\pm$ 0.91 (5.7–8.3)	6.6 $\pm$ 0.57 (5.7–7.6)
Head and body length (mm)	74.7 $\pm$ 4.52 (71.0–84.5)	72.2 $\pm$ 3.09 (67.0–78.0)
Tail length (mm)	54.4 $\pm$ 3.49 (50.5–60.5)	54.8 $\pm$ 2.72 (50.5–59.5)
Ear length (mm)	8.7 $\pm$ 0.42 (8.1–9.1)	9.0 $\pm$ 0.50 (8.3–10.1)
Hind foot length (mm)	13.1 $\pm$ 0.33 (12.6–13.5)	12.9 $\pm$ 0.40 (12.4–13.5)
Fore foot length (mm)	8.5 $\pm$ 0.25 (8.2–9.0)	8.3 $\pm$ 0.33 (7.7–8.9)

月 22 日 (標本番号 KUZ-M2635) にそれぞれ 1 個体のニホンジネズミの路上死体を拾得したほか, 1997 年 6 月 8 日には同地域の耕作地にある板の下からニホンジネズミの幼体 2 個体 (標本番号 KUZ-M2025, M2026) を採集した。

利島では, 長谷川が 1994 年 6 月 11 日にシマヘビ *Elaphe quadrivirgata* を捕獲し, その胃内容物としてニホンジネズミとみられる小型哺乳類を確認した。この標本は保存されていない。

考 察

本報告によりニホンジネズミの新島および利島での分布を再確認することができた。利島からはこれまで他の在来哺乳類は知られていないので (Hasegawa, 1999), ニホンジネズミが唯一の在来哺乳類と考えられる。わなかけ調査では新島, 利島でそれぞれ 14.0%, 17.5% という高い確率でニホンジネズミを捕獲することができた。一般にニホンジネズミの捕獲率は低く, わな数に対して 1% に満たないことが多い (本川, 未発表データ)。したがって, 伊豆諸島におけるニホンジネズミの生息密度は他の地域と比べて高いことが示唆される。

ニホンジネズミは日本の固有哺乳類の中では分布域が広く, ニホンアカネズミについて最も数多くの島嶼に分布する種である (本川, 1998)。伊豆諸島から知られる在来の陸上哺乳類はコウモリ類を除くとこれら 2 種にニホンイタチ *Mustela itatsi* を加えた 3 種だけであり (蔭山・本川, 1999), これらの伊豆諸島への侵入の歴史には興味を持たれる。蔭山・本川 (1999) は伊豆諸島の地史と関連して, ニホンジネズミの分布が確認されていた新島と式根島だけでなく, 利島と神津島にも同種が生息している可能性があるとの議論を行っている。本報告はこのうち利島での分布を確認したことになり, 今後は神津島での調査が望まれる。

ニホンジネズミはその分布域がきわめて広いにも関わらず, 標本の不足などから地理的変異の解析は十分には行われてこなかった。また, このため研究者によって亜種分類が異なり, その見直しが必要とされている (本川, 1998)。今泉 (1957) は新島からニホンジネズミを報告した際に, それを亜種ホンシュウジネズミ *C. dsinezumi chisai* と見なしたが, 彼自身が述べているように標本が幼体であるために亜種判定は便宜的なものといえる。今後, ニホンジネズミの伊豆諸島集団の亜種の位置づけについて, より詳細な検討が行われることが期待される。

謝 辞

森らの新島でのニホンジネズミの採集の一部は永田映子氏の協力を得て行った。本川による調査は藤原ナチュラルヒストリー振興財団の学術研究助成を受けて行った。

引用文献

- Hasegawa, M. 1999. Impacts of the introduced weasel on the insular food webs. In Ota, H. (ed.), *Tropical Island Herpetofauna: Origin, Current Diversity, and Conservation*, pp. 129–154. Elsevier, Amsterdam.
- 服部正策・吉行瑞子・浅木裕志・昇 善久. 1990. 奄美群島におけるワタセジネズミの地理的ならびに生態的分布と形態的変異の検討. 国立科学博物館専報 23: 167–172.
- 今泉吉典. 1957. ジネズミの新産地. 哺乳動物学雑誌 1: 62.
- 蔭山麻里子・本川雅治. 1999. 伊豆諸島式根島からのニホンジネズミ *Crociodura dsinezumi* の初記録. 哺乳類科学 39: 269–275.
- 本川雅治. 1998. 日本産ジネズミ亜科の自然史. In 阿部永・横畑泰志 (編), *食虫類の自然史*, pp. 275–349. 比婆科学教育振興会, 庄原.
- 高田靖司・酒井英一・植松 康・立石 隆. 1999. 伊豆諸島における小哺乳類の分布. 日本生物地理学会会報 54: 9–19.

(2000 年 1 月 18 日受理)

Additional Record of *Crociodura dsinezumi* from Nii-jima and To-shima, Izu Islands

Masaharu Motokawa¹⁾, Masami Hasegawa²⁾ and Akira Mori³⁾

¹⁾ The Kyoto University Museum
Sakyo, Kyoto 606-8501, Japan

²⁾ Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuou-ku, Chiba 260-8682, Japan

³⁾ Department of Zoology, Graduate School
of Science, Kyoto University
Sakyo, Kyoto 606-8502, Japan

The Japanese white-toothed shrew *Crociodura dsinezumi* (Temminck, 1842; Mammalia, Insectivora), was recorded from Nii-jima and To-shima of the Izu Islands, Japan. On Nii-jima, nine and two specimens were captured by traps and by hands respectively, and two specimens were obtained as carcasses found on the road. On To-shima, 14 specimens were caught by traps, and one specimen was found from the stomach content of the Japanese striped snake *Elaphe quadrivirgata* (Boie, 1826).